

読売新聞 きょう（9月16日）のイチ押し

一面 中露首脳 対面で連携確認

中国の習近平国家主席とロシアのプーチン大統領は15日、中央アジア・ウズベキスタンのサマルカンドで会談しました。2月のウクライナ侵略後、初めての直接会談です。両首脳は中露の覇権主義的行動への非難を強める米国へのけん制として、会談を通じて連携を誇示しました。

- ★プーチン氏は会談の冒頭、ウクライナ情勢に対する「中国のバランスの取れた立場を高く評価している」と述べ、習氏は会談で「双方の核心的利益に関わる問題で互いに力強く支持したい」と述べました。
- ★プーチン氏はウクライナの反転攻勢で戦況が悪化する中、中国のさらなる支持を取り付けたい思惑があります。一方、中国はロシアとともに国際社会からの孤立がさらに進む事態は避けたい考えで、習氏は直接的な軍事面の支援などには踏み込まなかった模様です。

一面 KADOKAWA 五輪便宜 直接依頼か

東京五輪・パラリンピックを巡る汚職事件で、贈賄側の出版大手「KADOKAWA」元専務らが大会スポンサーの契約前、大会組織委員会元理事の高橋治之容疑者（78）（受託収賄容疑で再逮捕）と面会し、スポンサーに選定されるよう直接依頼していたことがわかりました。同社社長の角川歴彦容疑者（79）が高橋容疑者側への手数料支払いを了承した疑いがあることも判明。東京地検特捜部は、角川容疑者への報告用に作成された社内資料を押収し、詳しい経緯を調べています。

他紙と比べて

「このまま、どこにでも行けるんだよな」。拉致被害者の蓮池薫さん（64）は車のハンドルを握ると、そう思うことがあります。2002年秋に北朝鮮から24年ぶりに帰国後、取り戻した「自由」をかみしめながら生きてきたといいます。初の日朝首脳会談で北朝鮮が日本人拉致を認めて20年。被害者と家族に流れた時間を振り返る連載が始まりました。きょうは蓮池さんと曾我ひとみさんの思いをつづっています。